



田植えも終盤戦に入ったのもつかの間、麦の収穫時期を迎え、大豆播種の準備に取り掛かります。大豆は初期生育でつまづくと、高収量が見込めません。高収量を目指すには、今まで以上に排水対策や病害虫対策が重要です。大麦刈取後はすぐに排水対策・土改材散布及び播種の準備をしましょう。まずは、苗立率を上げて初期生育を良くすることで、収量増大に結び付けましょう。

1. 大豆の作業

大豆

①麦刈

②土改材
散布

③溝堀
(手直し)

④播種

⑤除草剤

2. 圃場準備のポイント

①大豆播種の準備は大麦の刈取りから！

麦わらをすき込みやすくなるように、刈取時は高刈りせず、麦わらは細かく切断しましょう。

②土改材散布

PH調整を行い生育向上！
大豆の好適
pH: 6.0～6.5

③溝堀(手直し)

大麦の排水溝は必ず残し上手に活用を！

早期に既存排水溝の再整備(手直し)

排水不良時は排水溝の追加施工をしましょう。

額縁排水・中溝の再整備

- 溝の崩れを直す
(刈取作業や土改材散布作業での崩れ)
- 表面の雨水除去

雨水

排水口への接続

3. 種子消毒のポイント

- クルーザーMAXXIによる種子消毒で、発芽直後から発生する病害虫を防ぎましょう。

【効果】

- ①殺菌・殺虫効果が約1か月持続
- ②根部を病原菌から守る
- ③苗立率や初期生育を改善

【対象病害虫】

- フタスジヒメハムシ・アブラムシ類・タネバエ・ネキリムシ類
- 紫斑病・茎疫病・苗立枯病

【使用方法】

- 塗沫処理：乾燥種子1kg当り原液8ml
- 使用回数 1回

- 種子消毒後の乾燥
塗沫後は種子を十分に乾燥させる

4. 播種のポイント

- 適期播種および適正な播種量を設定する。(収量・品質の向上)
- 耕耘・砕土作業は、その日のうちに播種作業が可能な面積にする。
(耕耘・砕土～播種作業は一日工程で)

◎ 播種(ゆっくり丁寧に行う)

普通栽培 条間75cm 苗立ち数 15本/m

狭畦密植栽培 条間30cm 苗立ち数 7.5本/m

※播種前に種子の落下数を確認し、開度調整する。

※播種の深さは3cm程度を目標とする。

ゆっくり播種で砕土率を上げると...

- 発芽・苗立ちが良くなる
- 根量が増え根粒菌が増える
- 除草剤の効果が高まる
- 培土がしやすくなる

